

有機電子論の基盤シリーズ

(学部3年生・4年生および大学院生対象)

(4 研究科合同セミナー)

有機電子論の基盤5	2004年3月8日(月)15:00~16:30
有機電子論の基盤6	2004年3月9日(火)10:30~12:00

場所: 理学部 B501室

担当: 細矢 治夫 先生 (広島大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授)

各回のテーマと内容の概要:

「有機電子論の基盤5」

ベンゼンの6角形が多数縮合してできた芳香族炭化水素について、6角形のつながりのトポロジーが一つ一つの環の芳香族性と分子全体の安定性にどのように依存するかという問題を、グラフ理論だけでなく、共鳴理論も使って統一的に議論する。(プリント(その6、8))

「有機電子論の基盤6」

これまでのグラフ理論的分子軌道法と共鳴理論に加えて、CoulsonとLonguet-Higginsの摂動論を合わせた解析によって、RobinsonやIngoldの提唱した「有機電子論」の数学的な裏付けと適用限界の指摘を行う。プリント(その9、10、11))